

りそな Asia時事フラッシュ

タイ中銀は利上げ継続

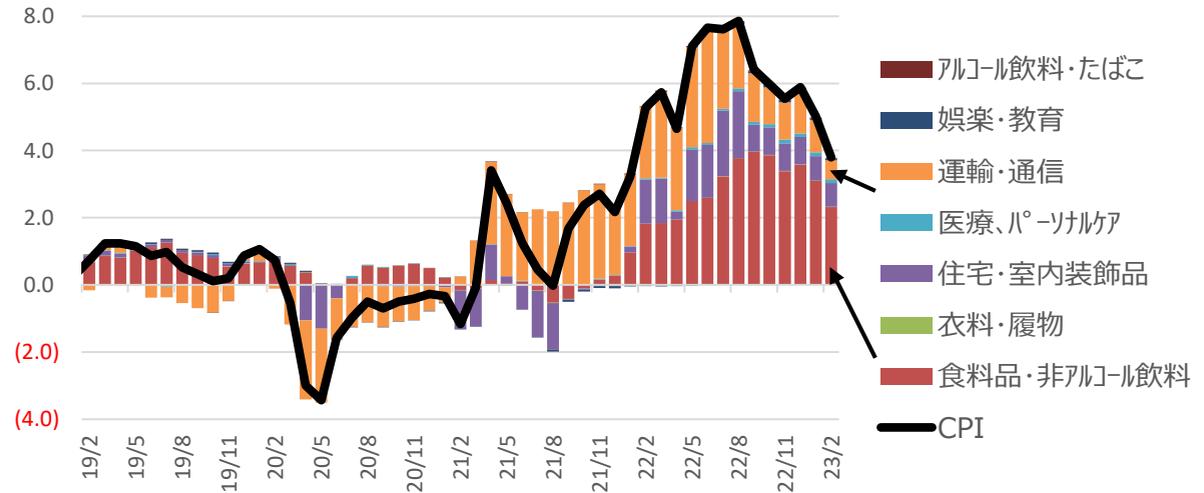
2023/3/30

りそなHD 市場企画部
担当: 呉

- 3月29日のタイ中銀会合では市場予想通りに0.25%利上げし、政策金利を1.75%に設定した。タイ中銀は①根強いインフレと欧米金融システムのストレスでグローバル経済の不透明感が増したものの、観光業と内需の回復でタイ経済が回復中であること②価格転嫁と需要拡大を受け、インフレ上振れリスクが依然としてあるという理由で今回利上げを決めた。
- 左下表の通り、タイ中銀は新しい経済指標予測を発表し、23年のGDP成長率、CPI、輸出の見通しを引き下げたが、輸入と外国人観光客数は上方修正した。
- 右下のグラフが示しているように、直近のタイCPIの急速な鈍化は主に食品や燃料鈍化による。当面原油価格の落ち着きや前年の反動から鈍化傾向が継続するだろう。ただし、輸入と外国人観光客の増加は財への需要増を意味するだけでなく、労働力不足といわれている主力産業の観光業における賃金上昇の圧力につながる可能性がある。実際に、5月の総選挙を控える中、各政党が最低賃金を大幅引き上げる公約を打ち出す動きが目立つ。これはタイ中銀がタカ派姿勢を維持する背景となろう。
- 一方、コアCPIから計算したタイの実質金利は直近でマイナス幅が急速に縮まっている。5月に再度0.25%利上げを実施すれば、プラスに転じる可能性が高い。早ければ、そのタイミングでタイ中銀は今後の利上げ打ち止めを示唆するだろう。
- タイバーツを展望すると、引き続きタイ中銀の比較的なタカ派姿勢と外国人観光客の増加によるサービス収支の改善が支えとなり、対ドルで堅調に推移するとみる。また、直近では欧米銀行不安が台頭する中、タイ銀行株も売られたが、タイ金融システムは安定性を示し、早いペースで買い戻された。これもポジティブ材料と言えるだろう。対円に関しては欧米銀行関連で、さらなるネガティブ材料が出れば、リスク回避の円買いの動きから下振れリスクに警戒する必要があるだろう。

主要経済指標	タイ中銀予測	
	2023	2024
GDP成長率(%)	3.6 ↓	3.8 ↓
2022年11月時点	3.7	3.9
CPI(%)	2.9 ↓	2.4 ↑
2022年11月時点	3	2.1
コアCPI(%)	2.4 ↓	2.0 →
2022年11月時点	2.5	2.0
輸出(%)	-0.7 ↓	4.3 ↑
2022年11月時点	1	2.6
輸入(%)	1.2 ↑	4.2 ↑
2022年11月時点	0.4	3.3
外国観光客(万人)	2,800 ↑	3,500 ↑
2022年11月時点	2,200	3,150

タイCPI各項目寄与度(%)



出所: タイ中銀、Bloomberg、Haver

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。